


<p>[氏名] 高田 勝裕 広島県出身、1977年9月30日生</p>	
<p>[現職] 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 チア株式会社代表取締役</p>	
<p>[学生へのメッセージ]</p> <p>私は、一般的な大学生と社会人学生の違いとして、社会人学生は「自らの置かれたビジネスを考えて実際に行動する人」だと考えています。つまり自身の現状に対して常に問題意識を持って柔軟な思考によって自らを成長させることができる人です。私は実務家として、テックジャイアント企業が従前型ビジネスに対して破壊的イノベーションを進めているデジタルマーケティングの最前線に身を置いて日々で変わりゆくデジタル広告ビジネスを推進して、そこで獲得した知識や技能を学生の皆さんに教授したいと思っています。そこで私は、講義に参加する学生に対して、目標を高くおき、自らを成長させることを厭わない姿勢を持ち、デジタル広告の学びを通じて日々変化するスピード感を楽しめる意識を持って講義に望んでもらいたいと思っています。</p>	
<p>[専門分野] デジタルマーケティング、データマイニング、パーソナライゼーション</p>	
<p>[担当科目] デジタル広告論</p>	
<p>[主な経歴]</p> <p>2009年、法政大学大学院修了、博士号（理学）。在学中から複数のスタートアップに参画する。2009年、Kauli 株式会社を創業。リーマンショック（米国金融危機）を発端に、コンピュータによるアルゴリズム取引を得意とするウォール街のエンジニアの多くが、金融業界を離れてコンピュータ化が遅れていたデジタル広告業界に移動し、知的高速取引システムをデジタル広告業界で稼働しようとしていた。米国では、この破壊的イノベーションによる業界再編をチャンスと見た多くの投資マネーが流入するのを見て、日本のスタートアップとして、わが国でも同様の広告取引所（アドエクスチェンジ）を実現すべく、株式会社フリークアウト（現 株式会社フリークアウト・ホールディングス、東証グロース市場上場）とともに日本国内で初めてサービスインさせることに成功した。米国外では初のリアルタイム広告取引所として世界から注目を集め、国内外の20,000以上のデジタル広告媒体が参加し、米国・欧州・アジアの有力広告主と取引する、アジア地域の一大広告配信プラットフォームまで成長させた。2015年4月、同社を株式会社 VOYAGE GROUP（現 株式会社 CARTA HOLDINGS、東証プライム市場上場）へ事業売却してエグジット、現在はプラットフォーム時代に必要な情報発信能力を具備するメディアテクノロジーを研究開発している。国内外の重要なデジタルマーケティングプロジェクトの多くに関与し、特にデータドリブンマーケティングに取り組む多くの企業や団体に対してコンサルティングをおこなっている。国内外の国際会議、大学やオンラインメディアにおける講演多数。</p>	

[主な研究業績/社会的活動]

■研究業績

高田 勝裕, 小松 亮介, 「アドテクノロジーとデータサイエンティスト, ーリアルタイムビ  
ッディングを支える現場よりー」, 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」, オペレーション  
ズ・リサーチ 9月号 2014年 Vol.59 No.9

特許 5501021号「広告効果測定データ作成システム」

特許 5639143号「広告配信管理システム」

■社会的活動, コンサルティング, アドバイス業務

- ・全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連)「組合加入促進におけるデジタル化推進  
検討会」
- ・全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連)「組織強化・デジタル化推進委員会」
- ・全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連)「令和7年度 組織強化担当者会議 東京  
会場」講演
- ・全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連)「令和7年度 組織強化担当者会議 岡山  
会場」講演
- ・トップデータサイエンティスト育成基金創設者
- ・ad:tech Tokyo 2014 Official Speaker
- ・一般社団法人データサイエンティスト協会設立同意者
- ・一般社団法人データサイエンティスト協会シンポジウム 公式スピーカー
- ・国内および海外企業、地方自治体に対する情報発信技術・広告技術に関するコンサルテ  
ィング業務多数

[所属学会・団体]

IEEE (米国電気学会) Computer Society

[資格・表彰]

- ・博士 (理学)
- ・IEEE 第18回 AINA 国際会議 (IEEE 18th International Conference on Advanced  
Information Networking and Applications) 優秀評価論文賞 (Highly Commended Paper  
Award)